



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学総合博物館ミュージアムマイスター：認定コースのご案内
Author(s)	北海道大学総合博物館ミュージアムマイスター事務局
Issue Date	2026
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/99120
Type	book
File Information	museum maister 2026.pdf



GUIDEBOOK

The Hokkaido University Museum

MUSEUM MEISTER

北海道大学総合博物館

ミュージアムマイスター

認定コースのご案内 2026年度





多様に専門化された 時代にこそ求められる ミュージアムマイスター

皆さんは、北海道大学の学生として、専門分野について深く学ぶことを目指し、旺盛な好奇心を持ち、努力を積み重ねながら日々を送っていることと思います。総合大学である本学では、様々な分野の先端的な研究・教育が行われており、次世代を担う皆さんの期待にこたえる専門教育の場ができています。

一方で、北海道大学が、建学以来掲げてきた理念のひとつに「全人教育」があります。総合博物館は、学科や学部の垣根を超えて、広い分野を学ぶことができる本学の恵まれた環境を最大限に活かした「全人教育」を実践したいと考えました。「博物館を舞台とした体験型教育」課程を設定し、広い分野の知識を講義や実習で習得するだけではなく、博物館が主宰する課外演習や活動を通じて実践的に学ぶコースとしてつくられたのが、「ミュージアムマイスター」認定コースです。

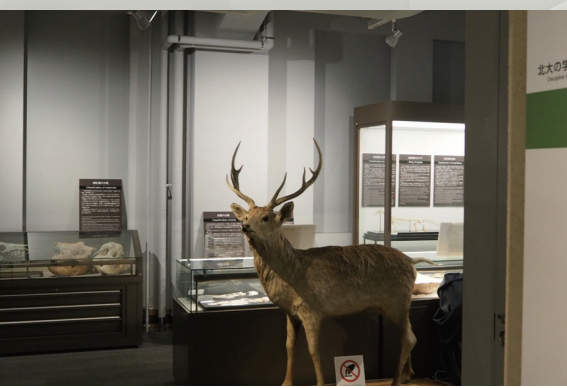
本コースでは、一定水準をクリアした学生を「ミュージアムマイスター」として認定します。しかし、平成21年度から始まったこのプログラムで誕生したマイスターはまだ65名です。これは、この称号がいかに関心する人材に与えられるものであるかを示しています。本コースで我々が重視するのは、単に知識だけではなく、現代社会において必要とされる「社会貢献のための高い見識と情熱」、「人間社会の持続的発展のために貢献できる知恵」を持つ人材の育成なのです。これは、まさに、北海道大学が目指す「全人教育」の完成形であるといえるでしょう。皆さんもマイスターを目指して、より充実した学生生活を過ごしてみませんか。

2026年4月

INDEX

- 01 多様に専門化された時代にこそ求められるミュージアムマイスター
- 02 ミュージアムマイスター認定コースの概要
- 03 開講科目一覧
- 04 開講科目の紹介
- 06 特集「マイスターに聞いてみよう！」
- 08 登録申し込みについて

※ミュージアムマイスター認定コースは2028年度末で休止する可能性があります。マイスター認定を希望する学生は、当該年度末までのクレジット認定を目指して下さい。



ミュージアムマイスター 認定コースの概要

「ミュージアムマイスター認定コース」とは、課題探究能力、協調性と自主性を備え、問題解決能力、コミュニケーション能力、マネジメント能力を持ち、自己評価の視点を身に付けた北大生を認定する教育システムです。シラバスの中から、北大総合博物館が認定した科目を履修し、さらに、博物館が主催するプロジェクトや講座に参加して、必要なクレジット数を取得し、一定基準の成績を修め、プレゼンテーションを含む面談をクリアした学生を、北大総合博物館長が「ミュージアムマイスター」として認定します。北海道大学の全学部・全大学院の学生が受講可能です。

●**受講方法**

下記の通り科目種別（A～D）の手続きに従って、受講申請を行ってください。大学院生が学芸員養成課程関連科目以外のABの科目を聴講希望する場合は、まず、ミュージアムマイスター事務局にお問い合わせください。

A 全学教育科目
（総合科目、一般教育演習、主題別科目）

高等教育推進機構・教務課に、指定の期日までに履修届を提出してください。

B 学部専門科目

他学部学生が履修する場合は、担当教員にミュージアムマイスター認定コースの一環として参加する旨をご連絡ください。（履修は所定の申請を行えば認められますが、卒業認定に関わるかは学部によって異なります。マイスターコースのクレジットは取得することができません。）

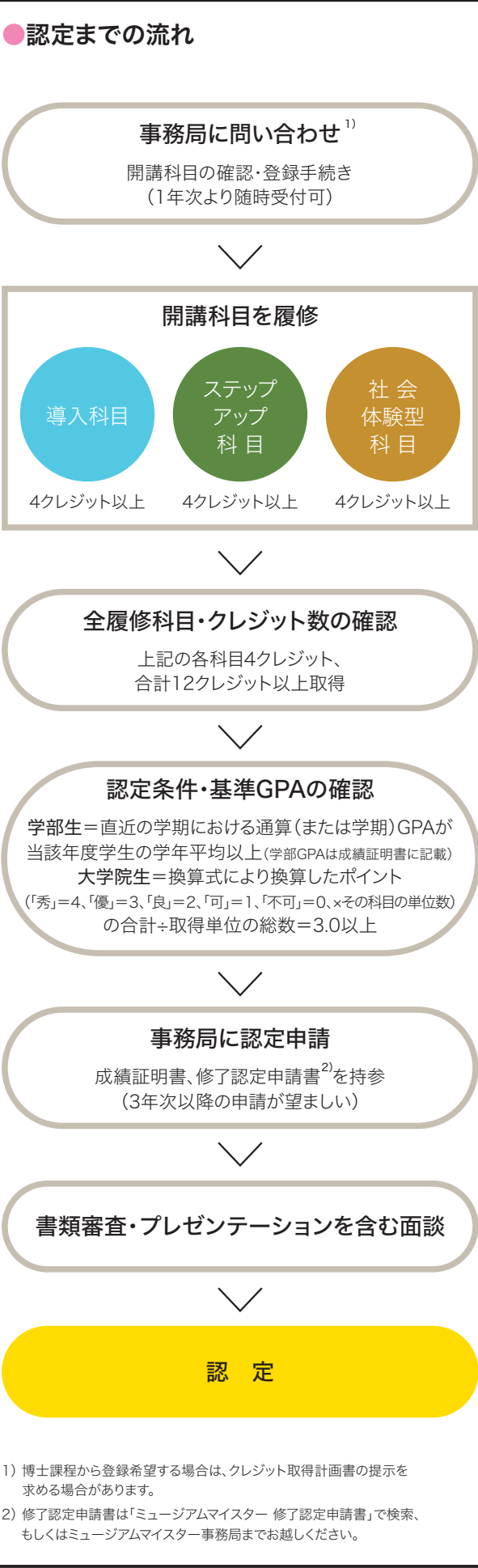
C 大学院専門科目・大学院共通授業科目

学部学生も3年生以上は履修可能です。その場合は、担当教員にミュージアムマイスター認定コースの一環として参加する希望を伝え、了承を得て、ミュージアムマイスター事務局にご連絡ください。（マイスターコースのクレジットは取得できませんが、学部学生は単位を取得できないため、履修届を提出する必要はありません。）

D オフカリキュラム・プログラム

通常の授業枠を超えて博物館が独自に開講するプログラムです。内容は、企画展の展示解説やセミナー運営など様々です。受講生は自分の空き時間を利用してプログラムに参加します。博物館独自のプログラムであるため、関連情報はシラバスには掲載されていません。卒業認定に関わる単位は取得できませんが、マイスターコースのクレジットは取得できます。受講生募集は、博物館ウェブサイトや構内ポスターで随時行います。今後の予定などはミュージアムマイスター事務局までお問い合わせください。

◎**クレジットについて**
クレジットはミュージアムマイスター認定コース独自のものです。大学院授業やオフカリキュラムのプロジェクトで認定されるクレジットは、卒業認定に関わる単位とは異なります。また「ミュージアムマイスター認定コース」で必要な科目と「学芸員資格取得」に必要な単位は異なります。



導入科目



環境・人間・文化に関する基礎知識を学習する科目や導入的なフィールド体験型科目。博物館の存在意義や活動についての基礎知識を学習する科目。

全学教育科目(総合科目)

- ・[環境と人間] 生物の多様性
- ・[環境と人間] 「モノ」+「コト」+「ヒト」＝北大総合博物館
- ・[環境と人間] フィールド科学への招待
- ・[人間と文化] アイヌ・先住民研究の現在

文学部専門科目

- ・博物館資料保存論
- ・博物館概論
- ・博物館情報・メディア論
- ・博物館教育論
- ・博物館資料論
- ・博物館経営論
- ・博物館展示論

ステップアップ科目



実物資料の扱い方やフィールドワークの方法を学習する科目や講座。博物館の活動と運営について理解を深める科目。

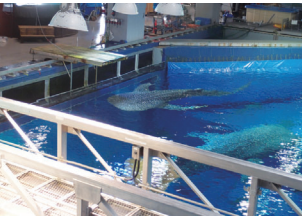
授業紹介

●水族館学

水族館をめぐる学問分野は非常に広範囲にわたっています。水産学、動物学、水質化学などの自然科学と、博物館学、経営学、教育学などの人文科学を総合的に理解することで、水族館とは何かということを学習します。また、水族館で実際に行っている研究活動や日常の仕事について、水族館の職員になるための過程についても紹介します。

本講義は、実際に水族館で活躍している方々が講師を担当します。今年度は鴨川シーワールド国際海洋生物研究所の荒井一利氏、沖縄美ら島財団(美ら海水族館)の佐藤圭一氏、おたる水族館の三宅教平氏、しものせき水族館海響館の萩本啓介氏を予定しています。

水族館職員を目指す学生にとっては、水族館の職員と接する機会ができるまたとないチャンスです。



●博物館学特別講義Ⅰ：学術標本・資料学

「博物館学特別講義Ⅰ」では各専門分野における標本・資料の意味、取り扱い方を理解します。具体的には、標本・資料の採取・収集法、保管法、利活用の技法、データ整理・公開法などについての知識や考え方を習得します。各分野の教員が週替りで講義をするオムニバス形式の授業で、1)海藻、2)陸上植物、3)昆虫、4)昆虫データベース、5)魚類、6)哺乳類・鳥類、7)古生物、8)無脊椎動物、9)岩石・鉱物、10)動物考古学、11)言語学、12)生物人類学、13)人類進化史、14)標本史、15)映像・科学技術史を取り扱います。学芸員資格のアドバンストコースとして位置付けていますが、同時に自然史・文化史を対象とした各研究分野への理解を深め、文理を融合した広い視野を持った教養人としての資質も身につけます。



社会体験型科目



全学教育科目(一般教育演習)

- ・海や水産の研究を学ぶグループワーク

大学院共通授業科目

- ・博物館コミュニケーション特論Ⅲ
- ・ミュージアムグッズの開発と評価

水産科学院専門科目

- ・水産科学特別実習Ⅰ：研究内容・周辺領域を紹介する教材を開発する実習
- ・水産科学特別実習Ⅱ：研究内容・周辺領域を紹介する教材を開発する実習

学生が博物館での活動を通じて社会とつながる実践と評価を行う科目やプロジェクト。博物館の展示や場を活用したプロジェクトの企画・運営・評価に参加したり、学生の研究成果を市民に向けて発信して意見交換する。

授業紹介

●卒論ポスター発表会

北海道大学を卒業するさまざまな学部4年生が、4年間の研究の成果を大きな1枚のポスターにまとめて発表します。学会での発表とは異なり、市民や他分野の学生にも理解できるようなポスターを制作し、わかりやすく説明することが求められます。中間発表会を複数回行い、教員の指導を受け、発表会に臨みます。



参加者の声

◎ポスターの準備や発表練習、実際の発表では、分野や興味関心の異なる方々から多数の意見や質問、アドバイスを頂き、自分の研究の目的や結果から得られた考察について新たな考え方を得られた。発表会当日は、聞き手である市民の方々にいかに興味を持っていただいてわかりやすく伝えるかについて深く考えた。試行錯誤しながら多くの回数をこなした経験を通して、研究内容を人に伝えるスキルの向上だけでなく、研究のアピールポイントなどの内容を整理できた。多くの方々と意見を交わり、自分の研究について説明を尽くした経験から得られたことは多く、今後に生かしていきたい。

◎来場者や審査員、運営スタッフ、担当の先生方のおかげで、非常に多くのものを得ることができた。例えば、説明する相手が他分野や一般の方であること、SDGsとの関連を示すことなど、所属する学部でのポスター発表とは異なる点に注力する必要があり、新鮮な体験だった。また、多くの方から自分では気づけない異なる視点から様々な質問やコメントを頂き教えて頂いたのは、普段の研究だけでは得られない、何物にも代えがたい経験だった。改めて誰かに「伝える」ことの難しさと奥深さを知ることができた。これらの経験を糧とし、今後も探求を深めて多くの人々に伝える努力をしていきたい。

●学生参加プロジェクト

市民に向けた大学博物館関連プロジェクトの企画・制作・運営・評価などに参加します。学生だけではなく、博物館教職員やボランティアと協働することで、コミュニケーション能力やマネジメント能力を養うことを目的としています。授業や普段の学生生活では味わうことのできない、貴重な社会体験の場です。

過去のプロジェクト：企画展展示解説／卒論ポスター発表会の運営 他多数



受講者の声

企画展の展示解説

◎鯨類の研究に興味があるために参加したが、解説を重ねるごとに、博物館でのコミュニケーションは解説員から来館者への一方的なものではなく、相互に意見や考え、体験を伝え合う「対話」であること、その対話に来館者に展示の記憶をより強く印象づけること、来館者はそれぞれ異なるバックグラウンドをもって展示を見ていることなどを初めて実感し、多くを学んだ。これらを意識して対応する間、常に、来館者それぞれの人生の中に少しでもこの展示が記憶として残れば良いと考えるようになり、自身の博物館に対する考え方が大きく変わった。今後コースを通してこの考えを深めていきたい。

卒論ポスター発表会の運営

◎発表会当日、私は来館者への声かけに非常に苦戦していた。想像以上に臨機応変に対応することが求められ、言葉が詰まることも多かった。また、コロナ禍も明けて外国人の来館者も多かったため、時には拙い英語で対応することもあった。しかし、先生方にアドバイスをいただいたり、他のスタッフの対応を見ながら積極的に対応を重ねるうちに徐々に成長し、1日目の午前より午後、1日目より2日目の方がスムーズに対応できるようになったことを自分でも感じ、嬉しかった。経験を積むことの大切さを強く感じた。今回の活動を通して得た経験を活かすことができるよう、今後も様々なことに取り組んでいこうと思う。

特集 マイスターに聞いてみよう！

新マイスターからのmessage

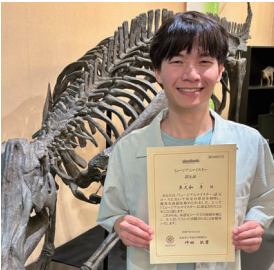
ミュージアムマイスター認定コースでは、これまで65名のマイスターが誕生しています。2024年度にマイスターに認定された4名の学生に、受講きっかけ、印象に残っている授業やプロジェクト、マイスターコースの魅力、在校生の皆さんへのメッセージを語っていただきました。コースで培った経験を活かし、博物館内外の様々な場で活躍しているマイスター達の声聞いてみましょう。



多久和 隼

2024年度 理学院 自然史科学専攻 修士2年次に認定

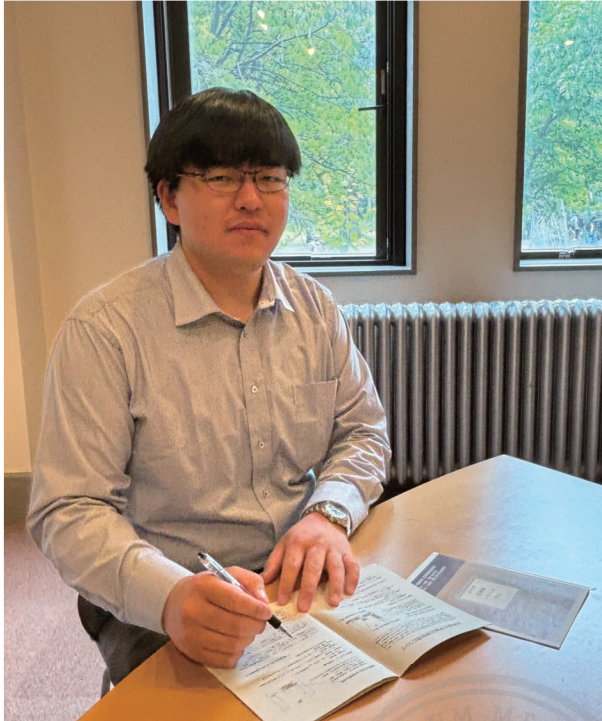
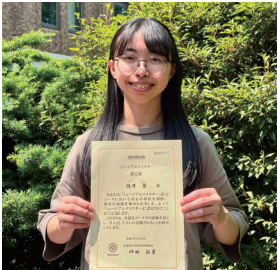
修士1年生のときに北海道大学に進学し、博物館関連の授業が非常に充実していることに驚いたと同時に、博物館で自身のやりたい形で教育普及活動に関われることに惹かれ、本コースを受講しました。本コースでの学生主体の活動を通じて、発想力や発信力を実践的に鍛えることができました。特に印象に残っているのは、学生企画のワークショップで制作した本の展示解説ページとあとがきを担当したことです。どうすれば市民の方々に楽しく学んでもらえるかを徹底的に考えられたため、普段の研究とは異なる視点で学問に向き合い、研究と教育の意義を考え直す貴重な機会となりました。今までにない経験を通じて楽しみながら成長できるため、ぜひミュージアムマイスター認定コースに挑戦してみてください。



徳井 翠

2024年度 理学部 地球惑星科学科 3年次に認定

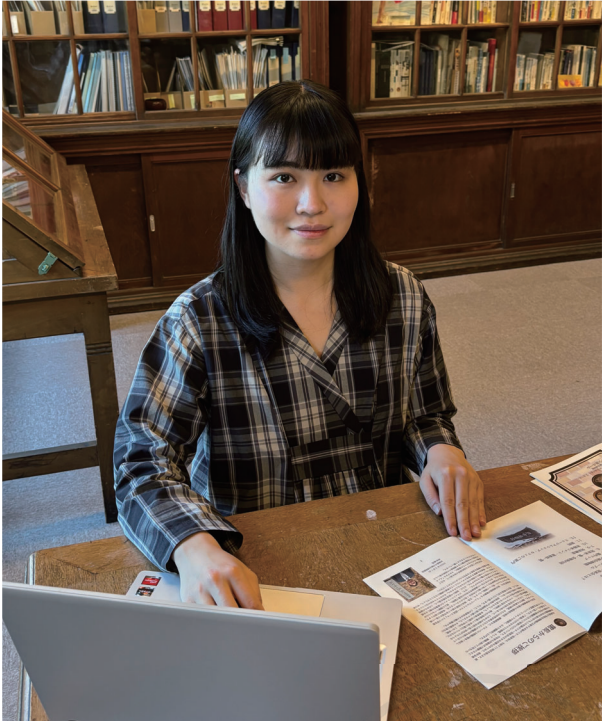
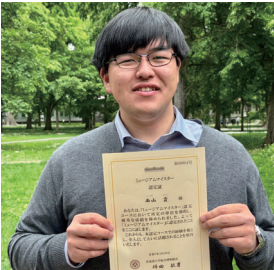
学芸員養成課程の科目を履修する中で、自身ももっと博物館活動に携わりたいと思い、ミュージアムマイスター認定コースに登録しました。特に印象に残っている授業は「パラタクソノミスト養成講座」や「フィールド体験型プログラム」のような、実際に資料を取り扱ったりフィールドに出たりする授業です。自身の専攻外の資料も扱わせていただき、博物館資料への理解を広く深めることができました。また、マイスター開講科目の履修を進めるうちに、ただ展示を楽しむだけでなく、展示手法や導線のようなミュージアム側の工夫にも気づくことができるようになりました。ミュージアムを訪れる楽しみが増えたことはもちろん、自身の成長を感じられた点も非常に嬉しかったです。



西山 貢

2024年度 文学部 4年次に認定

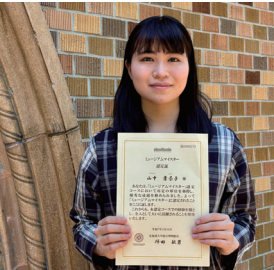
大学入学時に配布された資料の中にこのガイドブックがあり、ミュージアムマイスター認定コースの存在を知りました。以前から博物館活動に関心があった私は、学生のうちに北大総合博物館という場で実際に関わることができる貴重な機会だと感じ、受講を決めました。中でも印象に残っているのは、1年生で参加した卒論ポスター発表会の運営です。リーフレットの作成に携わったほか、発表者による中間発表などを通して、この先自分が取り組むことになる研究について知る機会にもなりました。マイスター認定コースでは、大学博物館として大学の研究を市民の方々に伝えられるのみならず、学部や学年の異なる人々と関わることで、自分自身が成長し、大学について深く知ることできると思います。ぜひ受講してみることをおすすめします。



山中 葉奈子

2024年度 文学部 映像・現代文化論研究室 3年次に認定

学芸員資格取得課程で学ぶ中で、実際に博物館の内側・裏側のことを知りたいと思い、ミュージアムマイスター認定コースの受講を決めました。マイスターコースで特に印象に残っているのは、卒論ポスター発表会の運営です。一般に想像する博物館の活動とは少し異なりますが、実際に考えたのは分野の専門外である人たちに研究内容を伝えるにはどうすれば良いのか、配置はどのように工夫すれば見やすいのか、魅力的かつ分かりやすい配布物のデザインはどのようなものか、といった内容でした。これらは博物館の展示にも通ずるものがあり、とても貴重な経験でした。他学部の仲間や先輩との出会いも刺激的で、自分の学部で講義を受けているだけでは得られなかった広い視野を手に入れることができました。



北大総合博物館のウェブサイト(<https://www.museum.hokudai.ac.jp/education/museummeister/>)からダウンロードし、以下の記入例を参考にして、必要事項を記入してください。

※注意事項
黒のボールペンではっきりと記入してください。
書き間違い、記入漏れ等がないか、もう一度しっかりと見直してください。

[illegible]

必要事項を記入した登録申込書を持参のうえ、
ミュージアムマイスター事務局に提出し、登録手続きを行ってください。



MUSEUM MEISTER
— HOKKAIDO UNIVERSITY —

www.museum.hokudai.ac.jp

